

「今と昔を比較して考えることができる」世界史授業の実践

—ジグソー学習などを活用した主題学習の取り組み—

千葉県立〇〇〇〇高等学校

〇〇 〇（世界史）

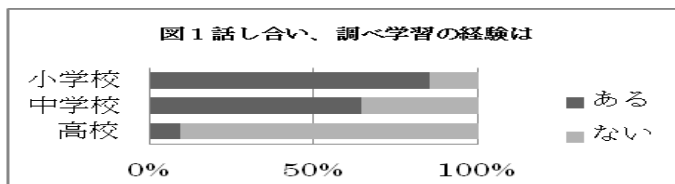
1. はじめに

小学校での3年間の勤務経験を経て、高等学校へ異動となった私にとって、「高校で授業をどう展開していくか」は大きな課題であった。地理歴史科・公民科の教員として、講義を中心にした授業の大切さは理解していた。しかし、生徒の興味・関心を引き出し、将来の社会に参画し、1人の社会人として生活していく生徒にどのような授業を展開していけば、歴史や公民の授業の理解が得られるのか様々な不安があった。そんな時、佐藤学の「欧米諸国の学校を訪問しますと、黒板と教卓があって机と椅子が一方向に並べられ、教師が教科書を中心に説明し生徒がノートをとるという授業風景は、もはや博物館に入っています。（中略）生徒が4、5人ずつテーブルに座って特定のテーマを中心に創造的、探究的に協同学習を行」い、「創造的な思考とコミュニケーションによって質の高い本質的な内容を探究し表現し共有する学びへ変化」しているとの言葉（佐藤学『教育の方法』、2010）に出会い、先進国を中心に世界的に学校教育の内容や方法が転換を迎えていることを知った。

新学習指導要領が告示され、言語活動の充実が明記された。背景には、PISA調査などの各種調査における日本の児童・生徒の実態が大きく関係している。日本の生徒・児童は、従来から指摘されてきたコミュニケーション能力欠如に対しての課題だけでなく、PISA調査などから思考力・判断力・表現力にも課題があることが判明し、佐藤の指摘にもあるようにコミュニケーションをはじめとした言語活動の充実が高等学校をはじめ、学校にも求められるようになってきた。

しかし、高校の授業では、周知のように、新学習指導要領が目指す、「記録、要約、説明、論述」などを含めた「言語活動」を展開した学習活動は、地理歴史科・公民科はもちろんのこと、他教科においても十分に展開されていないのが現状ではないだろうか。

私が日々、授業をはじめとした教育活動で向き合っている生徒は、早ければ高校卒業後または、専門学校、短期大学、大学卒業後には社会人となり活躍する。彼らは、人と関わり、人と交流するというコミュニケーションを通して、仕事し社会生活を営む。つまり、仕事や暮らしなどの社会生活においてコミュニケーション能力や表現力が求められる。そのため、高校生にはこれらの能力を卒業までに身に付けさせたい。



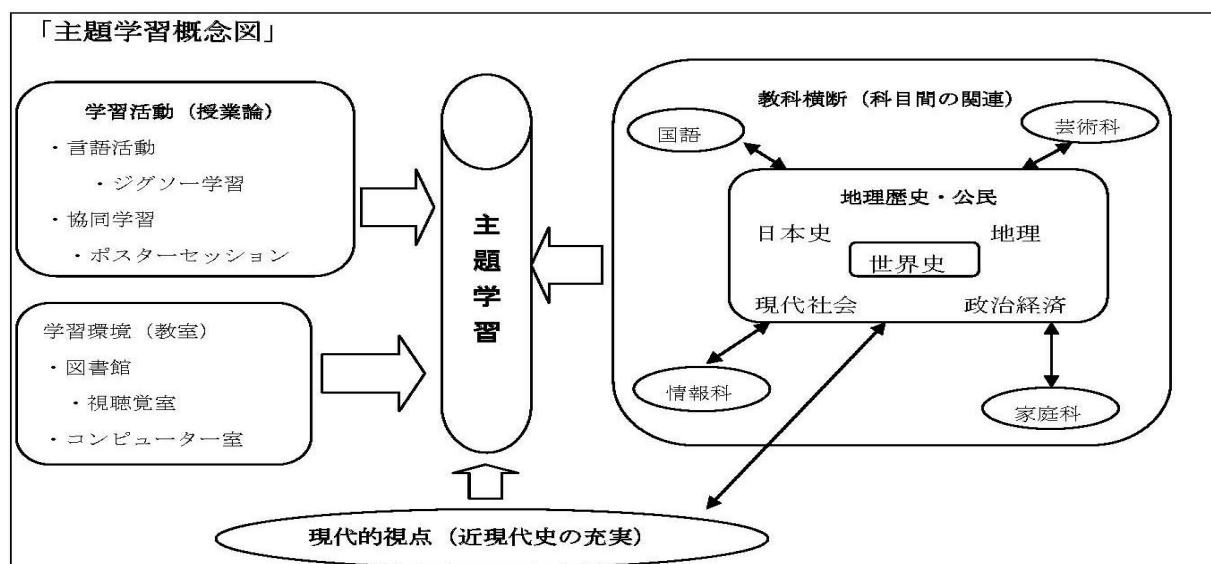
2. 主題設定

（1）学習指導要領から—主題学習—
平成25年度から実施される新学習指導要領では、世界史A・Bに共通して、

①科目相互の関連の重視、②課題を探究する学習を柱とする言語活動の充実、③地図や年表など様々な資料を活用した学習の一層の重視が基本的な考え方としてうたわれている。また、「3 内容の取扱い」の（3）に「主題を設定して行う学習」が世界史A・Bに共通して記されている。そこで上記、地理歴史科における新指導要領①から③の基本的な考え方、改訂の趣旨、改訂の要点など改訂に関する内容を踏まえ、言語活動、教科横断（科目間の関連）、現代的視点（近現代史

の充実)の連携を取り入れた、主題を設定して行う学習(以下、「主題学習」)を考えていくことにした。

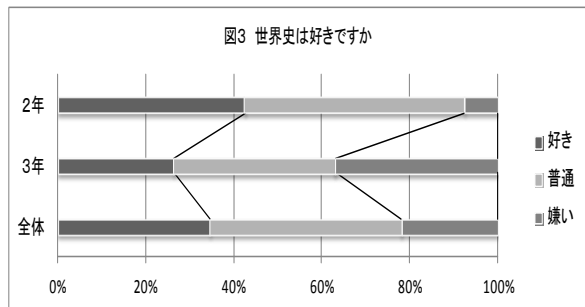
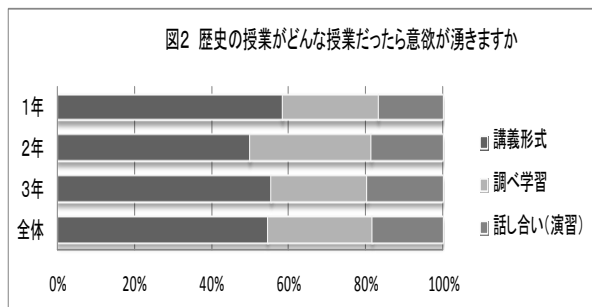
上記を連携させる「主題学習」授業を検討し、その結果、Ⅰ社会保障史「年金学習」、Ⅱスポーツ史「オリンピック学習」、Ⅲ食の歴史「コーヒー史」、Ⅳ国際関係史「宗教学習」、Ⅴ民族史「第一次世界大戦」についての授業を考えた。ⅠからⅤの授業を展開すれば、学習指導要領の地理歴史科の「改善の具体的事項」などに記された授業が展開できると考えた。また、本授業を展開していくことで、生徒に対して「過去と現代」のつながりに気づかせることができ、科目間の関連(教科横断)や現代的視点(近現代史の充実)を意識した授業ともなる。



(2) 過去の上に現在の生活があることを意識できる世界史授業の試み

私は、小学校勤務において、小学3、4、6年生の担任をした。音楽、書写の授業を除く、全ての授業を担当し、社会科に限らずどの教科においても言語活動的な学習方法を展開してきた。言語活動的な教育活動は、私だけが展開していた訳ではない。図1から「話し合い学習」や「調べ学習」など、言語活動的な取組は、生徒の85%が小学校時代に、65%が中学校時代に経験したと答えているように、小・中学校では、様々な授業で展開されている。一方、高校の授業では9%しか「経験した」と答えていない。このことから分かるように、「話し合い学習」「調べ学習」の経験は、上級学校へ進むにしたがい減少し、特に、高校での減少が顕著である。

さて生徒は、「歴史の授業がどんな授業だったら意欲が湧く」(図2)と考えているのだろうか。アンケートでは、講義形式が一番多い。理由としては、「話し合いがあまりない方がいい」や「教科書には載っていない。歴史の裏側とか、豆知識とか」「世界史に関する話がたくさん聞きたい」というコメントが多かった。一方、4割以上の生徒が「話し合い、調べ学習」による、授業ならば意欲が湧くと答えている。また、講義形式を選択した生徒のコメントにも「基本板書でたまにプリントや話し合いをはさむ感じ」や「黒板に書いたことをノートにまとめるのはもちろん、先生の話を聞いてノートに付け加えていくのがいいと思います。調べ学習や話し合い(演習)形式は年に2、3回くらいでちょうど良いと思うのですが…」との意見があり、講義形式が意欲が湧く生徒の中にも「調べ学習」や「話し合い(演習)」学習、つまりは言語活動的な学習に取り組みたい生徒がいることは分かる。



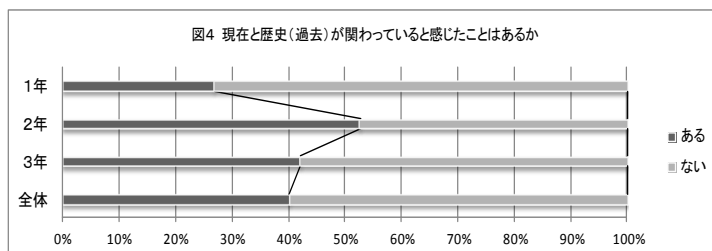
歴史が好きな生徒、興味や関心がある生徒は多くいる。しかし、日本史に比べ世界史に対しての興味・関心は極めて低く 25%程度であった。生徒の世界史への興味・関心が低い理由としては、「幅広い」「覚えられない」「カタカナが苦手」「条約とか事件とかが多いから」というものであった。「世界史の授業がどんなだったら良いか」との問いに、

- ・現代世界史みたいな感じで、昔のことはどうでもいいから今現在どんな問題があり、それによってどのように日本に影響を及ぼすかが知りたい。
- ・年代的にあまり古すぎず、現代とのつながりを明確に教えてくれる授業。
- ・現代との関わりをうまく関連させて教えてくれたら・・・。

との生徒のコメントがあった。生徒は、「歴史を過去（昔）の出来事として捉え、現在の問題に関係していることに気がつかない」ことが世界史の興味・関心を低くしている理由と言える。

図4の生徒への実態調査でも「現在と歴史（過去）が関わっていると感じたことがあるか」との質問に、生徒の60%が「ない」という回答をしている。この回答からも、生徒が歴史と現代社会につながりを意識していないことが分かる。

しかし、図3、4の2年生の解答に注目すると、「世界史が好き」「現在と歴史（過去）が関わっていると感じたことがある」が他学年に比べ高かった。2年生のコメントなどには、図3「世界史が好き」では、「ヨーロッパの歴史が好き」や「今、当たり前なことがどのように生まれたか分かる」、「色んな文化とかでてくる」ということが、図4「現在と歴史（過去）が関わっていると感じたことがある」では、「歴史を学ぶことで、現代の社会に活かせることができる」や「昔の風習などが今だに残っている国があるところ」という理由が記されており、他学年に比べ「現在と歴史（過去）」を意識している生徒が多くいた。そのことが世界史に対しての知識や興味・関心を高めていることがわかった。（図1～4は、平成23年10月実施、1年40名、2年38名、3年38名）



また、「どんなところで、現代の社会と歴史（世界史）が関わっていると感じますか。（言葉で）」とのアンケートに、

- ・「差別の歴史は今も残っている（1年）」・「有色人種への差別（1年）」・「昔の文化や伝統を受けついでいるところ。（1年）」
- ・「昔につくられた制度とかが、少し形が変わって現代でもつかわれていたりする。（1年）」
- ・「東日本大震災で、津波が押し寄せてくる高さを示した碑を昔の人がつくっていて、今回の津波もその碑には達しなかったこと。（1年）」
- ・「アメリカ軍基地があることとか、昔戦争があったんだって思う。（2年）」
- ・「日本ではアメリカや他の国と条約を結んでいて、沖縄が苦しんでると思った。（2年）」
- ・「歴史で決められた規則や法が現代に引き継いでいるから関わっていると感じます。（2年）」
- ・「現代社会は今まであったことをつみかさねてきてる人だから関係ないことはそんなないと思う。（2年）」
- ・「昔の物や考えが今の現代につながっていると思いました。（2年）」
- ・「世襲制とか・・・。（3年）」・「過去の歴史があったからこそ、今の社会があると思うから。（3年）」
- ・「過去があって今があり、今があって未来。直接的ではなくても必ずどこかでつながってると思う。（3年）」

との回答があり、2年生に限らず約3分の1程度の生徒が現在と歴史のつながりを意識していることが分かった。

歴史の教員として、歴史とは現在の事象にも大きく関係していることに気づかせたい。生徒が現在と歴史の関わりを理解していけば、生徒の世界史学習への意識も変化し、意欲を持って授業に取り組めるようになると思うからである。以上のことから、過去の上に現在の生活があることを意識できる世界史授業を考えていくこととした。

3. 授業方法—ジグソー学習・ポスターセッション—

本研究では「言語活動」「教科横断（科目間の関連）」「現代的視点（近現代史の充実）」の3つの項目を連携させる「主題学習」の授業方法として、「ジグソー学習」と「ポスターセッション」を授業で用いた。そこで、「ジグソー学習」と「ポスターセッション」を主題学習において取り入れる利点をそれぞれ説明する。

（1）ジグソー学習

ジグソー学習の利点としては、「生徒がお互いを好きになる」「学校が好きになる」「自尊心が高まる」「競争的な感情が減少する」「学業成績が向上する」「相手の立場に立って考えることができる」などがあげられている。また上記からの派生として、「生徒の主体性の向上」「学習に対する責任感の向上」「コミュニケーション技能の向上」がある（西尾『「ジグソー学習」を使った地理Aの授業」2006）。

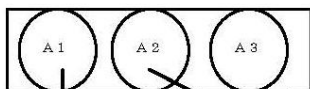
資料1 ジグソー学習の手順

- ① 6～7人のジグソー班（基本班）をつくる。
- ② 6～7人のジグソー班（基本班）の班名を伝える。これを母集団とする。
- ③ 基本班の中で話し合い、各自（班員一人一人）が調べる課題（テーマ）を決める。
- ④ 基本班内で、6つの課題（テーマ）を誰が調査するかを決定し、課題（テーマ）毎の「課題班」に分かれる。
- ⑤ 「課題班」の班員毎に集まり、調査を行う。
- ⑥ 「課題班」で調査を行った後、「基本班」に戻り、集合し着席する。
- ⑦ 「基本班」の班員に、「課題班」で調査した内容を説明、解説する。
- ⑧ 「基本班」からでた、疑問や質問を整理する。
- ⑨ 再度、「課題班」毎に集まる。基本班から出た疑問や疑問を中心に、課題班の班員で、更に調査する。（再調査）
- ⑩ 再度、「基本班」で集まる。前回、基本班からでた、疑問や質問に答え、説明する。
- ⑪ 「基本班」の班員で、課題についてまとめる。

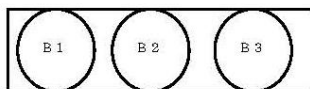
資料2 ジグソー学習の概念図

①調査班

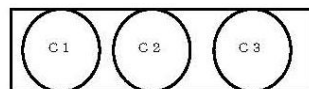
基本班A



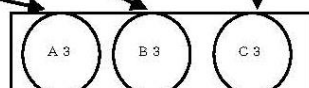
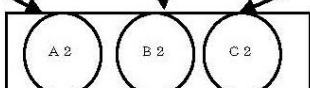
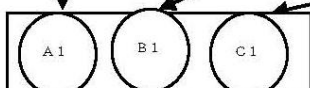
基本班B



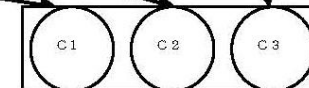
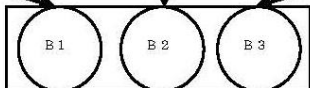
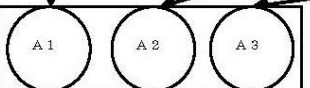
基本班C



②課題班（ジグソー）



③元の基本班



(2) ポスターセッション

「ポスターセッション」の利点としては、「話し手と聞き手の距離が近いので参加者に合わせた密度の濃い発表が出来る」「話し手と聞き手の距離が近いので細かな教材を提示できる」「聞き手は自分の興味関心に従って発表を聞く事が出来る」「時間を上手く使えば、口頭発表よりも多くの発表を聞く事が出来る」「気軽に質問が出来る」などがある。

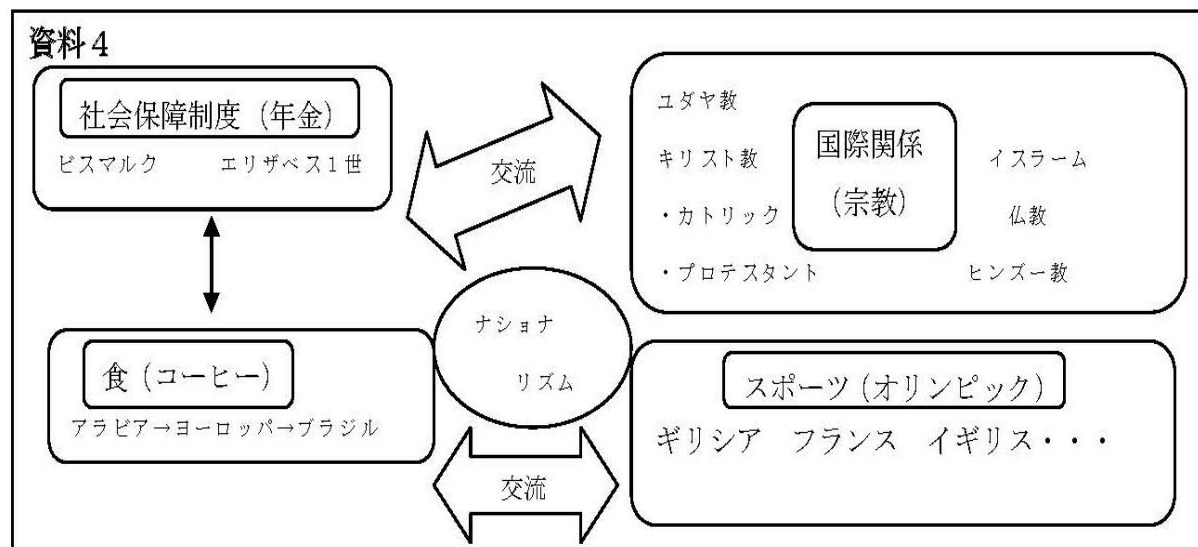
資料3 ポスターセッションの手順

- ①課題班毎（6～7人）に集まり、調査を始める。
- ②課題班毎（発表するテーマ毎）に分かれ、一つのコーナーを使い、ポスター（模造紙）を貼るなど準備をする。
- ③一つのグループをさらに、「前半発表する人」と「後半発表する人」に分ける。それぞれ発表時間の半分ずつを「発表」と「聞く」ことにあてる。
- ④「発表」するときは、聞きに来た人たちによく分かるように発表し、最後に質問を受け付ける。
- ⑤「聞く」時は、一つのグループの発表を聞いた後、順番に次のグループの所へ行ってみる。よくわからないことや、詳しく聞きたいことがあったら、発表が終わったら質問する。
- ⑥発表時間の半分になったら、発表する人を交代する。

(3) ジグソー学習やポスターセッションの効果

ジグソー学習やポスターセッションを世界史授業に取り入れることで、生徒は単語と単語、用語と用語、国と国、人物と人物という横の繋がりでしか理解できなかった歴史が、時代を超えて縦のつながりも意識して捉えられ、「幅広い」「覚えられない」という歴史を現在にも関係があることに気づける。そして、この学習を展開することでコミュニケーション能力や表現力を含めた新指導要領が目指す、言語活動の充実と科目間の関連（教科横断）、現代的視点（近現代史の充実）が目指せるのではないだろうか。

資料4



4. 授業実践

(1) 年間指導計画における位置付け（新指導要領による）

	学 習 内 容	実 践
1 学 期	(1) 世界史への扉	主題学習：ポスターセッション学習 「アジアにつながる沖縄」
	(2) 諸地域世界の形成	
	ア 西アジア世界・地中海世界	主題学習：ポスターセッション（国際関係史） 「宗教を題材とした学習」
	イ 南アジア世界・東南アジア世界	
	ウ 東アジア世界・内陸アジア世界	
	エ 時間軸からみる諸地域世界	

2 学 期	(3) 諸地域世界の交流と再編	主題学習：ジグソー学習（スポーツ史） 「オリンピックがもたらしたもの」
	ア イスラーム世界の形成と拡大	
	イ ヨーロッパ世界の形成と展開	
	ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界	
	エ 空間軸からみる諸地域世界	
	(4) 諸地域世界の結合と変容	主題学習：ジグソー学習（社会保障制度史） 「年金の歴史と未来」
	ア アジア諸地域の繁栄と日本	
	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界	
	ウ 産業社会と国民国家の形成	
	エ 世界市場の形成と日本	
	オ 資料からよみとく歴史の世界	
3 学 期	(5) 地球世界の到来	主題学習：ジグソー学習（民族史） 「民族の目で第1次世界大戦を考える」
	ア 帝国主義と社会の変容	
	イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現	
	ウ 米ソ冷戦と第三世界	主題学習：ポスターセッション学習（食の歴史） 「世界に広がるコーヒー」
	エ グローバル化した世界と日本	
	オ 資料を活用して探究する地球世界の課題	

(2) 年金学習

年金は、近年の日本において、ニュースなどで頻繁に耳にする用語である。そのため、「年金という言葉を知っていますか。」との質問に、全ての生徒が「知っている」と答えた。また、『『年金』と聞いてどんなイメージがあるか』聞いたところ、

- ・お年寄りの生活費
- ・退職してからもらっていくもの
- ・おじいちゃんおばあちゃんが昔はたらいてかせいできた

などの答えが全てであった。年金について、年金イコール「老人のため」「老後のため」というイメージを生徒が持っていることが分かる。

「老人のため」「老後のため」というイメージを持たれている、現在の日本の年金制度だが、老後、老人のための「老齢年金（一般的に言われる「年金」）」だけが年金ではない。事故や病気などから障害者になった場合に受け取る障害年金や主たる収入者などが死亡した時に残された遺族に支払われる遺族年金なども年金の種類としてはある。また、生徒は老齢年金を「おじいちゃんおばあちゃんが昔はたらいてかせいできた」お金が主な原資となっていると考えている。しかし、日本の年金制度について言えば、ある程度の積立金を有しながら賦課方式と呼ばれるその時代の現役世代の保険料で賄う方式を採用している。そのため、これから社会人となり、年金受給者を支える存在ともなる生徒達にとっても年金制度は、大きく関係してくる。

日本の年金は、軍人に対しての恩給制度から始まった。日本に限らず多くの国では、年金は、社会保障制度の一貫として成立している。そのため、生徒が年金をテーマに学習することで、年金を含めた社会保障制度が成立した背景や時代状況、当時の政治家の考えから現在の年金までを課題別に調査し深めあうことで、横のつながりでしか学習しづらい歴史学習が、縦のつながりを通して学習でき、現在と過去の関わり気づけると考えた。そこで、将来は納付者、受給者となる年金を主題に設定したジグソー学習を行い、年金について学習することにした。

ア 学習指導計画

（「関心・意欲・態度」【○】，「思考・判断・表現」【□】，「資料活用の技能」【◇】，「知識・理解」【△】）

時限	学習活動	教師の支援活動	評価の留意点
第1時限	1, 本時の授業内容を説明する。 2, 基本班で集まる。課題班, 分けを行う。クラス(41人)を6グループ(6~7人)に分ける。 3, 自分は何を課題にするか決める。	◎最近の年金についてのニュースを解説し関心を高める。 ◎年金に関心を持ち, 年金について調べることに興味を持たせる。 ◎ジグソー学習のため, 課題班の1人ひとりが発表し, 1人ひとりに責任があることを伝える。	☆年金について関心を持っているか。【○】 ☆課題班に分かれ参加し, 各課題毎に年金の内容を調べようとしているか。【○□】
第2時限	1, 課題班で集合する。6つの課題班に分かれ, 課題班毎に調べる。	◎課題班内で, 図書やインターネットで調べる担当を決め, 調査する。	☆各テーマ毎に一人一人が調べているか。【○□△】
第3時限	1, 基本班で集合する。基本班に戻り, 発表を行う。	◎基本班に戻り, 課題班から集まる。課題班の1人1人が他の班に, 自分たちが調べたことを解説, 説明する。	☆各自が責任を持って, 課題班で調査したことを伝えられたか。【□◇】
第4時限	1, 課題班で集合する。課題班に分かれ, 再度, 課題班毎に調べる。	◎課題班に戻り, 基本班からでた質問疑問などを調べるように伝える。	☆各テーマ毎に1人ひとりが調べているか。【○□△】
第5時限	1, 再度, 基本班で集合する。	◎基本班で集合し, 課題班で調べた, 質問事項などを基本班で伝えるよう指示する。	☆発表者の話を熱心に聞き, プリントに記しているか。【○】
第6時限	1, 基本班で集合し, 模造紙や紙芝居にまとめる。	◎各自が他の班の情報も入れながら, 年金についてまとめるように伝える。 ◎内容を丁寧にまとめるようにする。	☆教員の説明を聞いているか。【○】 ☆課題班の発表を含め, 丁寧にまとめているか。【○□△】
第7時限	1, 年金学習のまとめを行う。	◎配布した用紙に年金学習で学んだことを書くことを伝える。	☆他の基本班, 他のクラスの掲示物を見学し, レポートをまとめているか。【○◇△】

イ 1時限目

生徒達は, 教員からジグソー学習の方法についての説明を受ける。その後, 生徒は6~7人の基本班をつくる。集まった基本班員(6~7人)が話し合い, 班員1人ひとりが, 下記の①から⑥の課題どれを調べるか, つまりは基本班員の話し合いによって, 基本班員の誰がどの課題班で課題を調べるかを決定する。

資料5 学習課題(課題班)

- ① 年金の歴史, 年金はいつどこではじまったか。(ビスマルクの政策等)
- ② 世界最初の年金内容は(何歳から, いくらぐらい)
- ③ 現在の世界各国の年金制度内容(何歳から払い, 何歳から貰える, いくら払う)
- ④ 日本の年金成立史, 制度内容(戦前)(いつ年金はできた, できた理由は, いくら貰えた, 何歳から払った)
- ⑤ 戦後(現代)の日本の年金制度(いつできた, どんな年金があるの, いくら払うの, 何歳から払う, 何歳から貰えるの)
- ⑥ 日本の人口

ウ 2時限目

課題班で集合する。前時に何を課題として調べるか, 課題を決定しているので, それに従い調査に入る。調査では, 課題班内の6~7人の班員が2~3人ずつ図書やインターネットなど課題班内で班員がコミュニケーションを取り, 分担を決め調査をする。その後, 課題班内での情報交換, 共通理解をするため調べ先から課題班に戻り, 図書メンバーは図書で分かったことを, インターネットメンバーは, インターネットで分かったことを課題班の班員に報告した。



エ 3時限目

基本班に再集合する。課題班で調べたことを基本班（別の課題を調べた人の集団）で解説・発表する。解説・発表時に、基本班からでた疑問や質問は、4時間目に各課題班に持ち帰り、再調査を行う。



オ 4時限目

課題班で集合し、基本班から出た疑問や質問などについて再調査をする。

カ 5時限目

再度、基本班で集合する。前回、基本班からの疑問や質問を中心に調査した内容を伝える。

キ 6時間目

基本班で集合し、模造紙や紙芝居にまとめる。



ク 7時間目

他の基本班や他のクラスが作成した模造紙や紙芝居を見学し、年金についての理解を深める。

現代社会資料 No.45 (文系)
3年 一組 番 氏名 _____

年金学習のまとめ

あなたのグループ	3 G	調査番号 (班)	5 班
グループメンバー	まっぴら さかえ おのた めう おらま あけ かまのき わづ はるか	調査班メンバー	吉村あおき がわすたれい 黒田さや よまつか なまつりあき あすの わづ はるか

①「年金の歴史、年金はいつどこではじまったか。(ビスマルクの政策等)」
年金は古代ローマの生活保障からはじまった。制度の成立はドイツのビスマルクが1873年に「マテムス」政策をはじめとした。公的年金保障制度と社会主義者連立を同時に実施したため。
イギリスでは1942年ベリッチ報告を行った。
古代ローマの生活保障からはじまった。

②「世界最初の年金内容は? (何歳から、いくらぐらい)」
公的年金制度はじまったのはドイツ1880年代のビスマルク政策と社会主義者連立が決定したのがドイツ。

③「現在の世界各国の年金制度内容? (何歳から払い、何歳から貰える、いくら払う)」
オーストラリア 65歳から年金を55歳開始
2010年以降10年間の、60歳以降 65歳から年金を55歳開始
5年間のニューギニアに居住するが条件
イギリス 男性65歳から女性60歳から 65歳から 60歳から 男性60歳から女性62歳から
フランス 65歳から 60歳から 男性60歳から女性62歳から
ドイツ 65歳から 60歳から 男性60歳から女性62歳から

④「日本の年金成立史、制度内容 (戦前)」 (いつ年金はできた、できた理由は、いくら貰えた、何歳から払った)
1875年... 軍人恩給 (陸軍軍人に死没後支給された)
1876年... 陸軍恩給令
1923年... 恩給令
ごまかさんと家族の生活保障のためにつくられた

⑤「戦後 (現代) の日本の年金制度」 (いつできた、どんな年金があるの、いくら払うの、何歳から払う、何歳から貰えるの)
1961年... 国民年金 (若年者年金と若年者年金)
1986年... 年金制度改正により、若年者年金制度が導入
年金制度は国が全国民に負担とし運営する公的年金と
国以外が運営・主役となる私的年金に分けられる

⑥「日本の人口、産業」 (人口の変化、第1次産業、2次産業、3次産業の推移)
1945年 戦後の人口は7215万人
昭和60年から第1次産業は減少、第2次、第3次産業は増加
2010年 人口は1億2752万2000人のうち595万人が170万人
男613万5000人、女6618万人 → 女が男より多い (若い世代は男が99人、若い世代は男が99人)

まとめ (メモ): 書き足りない所を書いてください。
① イギリスは老害のモトで、ドイツは若年者にあった
ビスマルク、1875年 → 1889年に障害者年金制度を確立
② 1876年に年金を支払った軍人を対象とした恩給制度
厚生年金 1942年、男子労働者現業に付、1944年女子にも付した
→ 軍人年金とインフレ抑制策としての労働者年金の3種類が

※12月9日(金) 試験終了後、学習課題係が回収し、加藤の進路室の机上に置くこと
提出期限: 12月9日(金) 試験終了後(13時まで)

ケ ジグソー学習の活用効果

「ジグソー学習はどうでしたか」の質問には、「ややつまらなかった」「つまらなかった」との答えが1つもなかった。そして、「ジグソー学習で他の課題別グループの調査内容を聞くこと」については、

- ・自分が調べなかったこと以外のことを説明してくれた
- ・自分達が調べたもの以外のものをたくさん知れた
- ・他の班の本やPCでの調べ方が若干、自分達と違ってそんな調べ方をしたら、こんな情報が手に入るんだなあと思った
- ・いろんな班がそれぞれ違うことについて調べているので、情報が集まりやすい

などの意見があり、7割以上の生徒が勉強になったと答えた。ジグソー学習の感想として、「普段知ること、知ろうとしないことをいつもの授業形態ではなく楽しく学ぶことができてよかった。」や「自分達と違ってそんな調べ方をしたら、こんな情報が手に入るんだなあと思った。」「いろんな班がそれぞれ違うことについて調べているので、情報が集まりやすい。」「ジグソーをやると、たくさんの情報が集まるのでよかった。」「班の人と仲良くなるきっかけ作りになってよかった。調べ学習自体も大切だけど、お互いが仲良くなれたのが最も良かった。」「この学習で自分の考えをまとめる力、表現力の確認ができ、自分に不足している力を発見することができた。」「各班1人1人が、手を抜いてしまうと、ジグソーの際、しっかり発表できなくなってしまうので、このシステムはよかった。」というコメントが記された。このような感想から、生徒同士がお互いの発表をしっかりと行い、ジグソー学習の利点である、「生徒がお互いを好きになる」や「相手の立場に立って考えることができる」「コミュニケーション技能の向上」「学習に対する責任感の向上」が発揮された成果だと考える。

図5 年金学習を通して、「現在」と「過去」は意識できたか。



図5から現在と過去（歴史）をつなげる授業を目指した点では、7割以上の生徒が意識出来たことが分かる。

ジグソー学習で展開した年金学習について、

- ・年金って言葉は、聞いたことしかなくて、よく意味とかわからなかったけど自分も年金にあと少しで関わることになるから、年金について学習できてよかった。けど、基礎知識とか何も知らなかったから、本とか読んでもよくわからない所が多かった。もっと社会的な知識を増やしたいと思う。
- ・まわりのグループの発表をきいて、学ぶことができた。
- ・ジグソー学習はグループによってテーマがちがったからいろいろ知れたし、よかったと思います。ただ、私のグループのテーマは意外とむずかしく大変でした。
- ・年金についてよく知らなかったけれど、学習してみて年金について知ることができたよい機会になった。ジグソー学習をしてみて、お互いに情報をきくことができてよかった。
- ・自分達の班は世界の年金について調べたが、日本との違いが比較することができたのでいい学習になったと思う。もう少し日本の年金については詳しく調べていきたい。
- ・社会に出る前に年金について知る機会が出来て良かった。

との感想があった。特に、「最初の年金制度を学ぶことによって、ほかの制度や歴史的背景も知ることができました。今の年金制度と昔の年金制度を比較して、年金について考えることができました。」との感想が得られたことは、現代と過去のつながりを意識し比較して考えられる授業になったのではないかと考える。

また、今回の年金学習について9%の生徒が「勉強にならなかった」と答えたが、残りの91%の生徒は、「年金についての知識がなにもなかったから」「いろんな知識がついた」などの評価となった。9%の生徒の感想としては、「ジグソーを終えて、自分の班が担当して調べたことについては、それなりの知識を身に付けることができたが、ジグソーの班では、ほとんど詳しいことを学ばず年金について漠然としたことしか頭に残らなかった。年金はこれからの自分に必ず関わる

ことなので、いつもの授業で学びたかった。」「調べる時間が短すぎた。」などが理由であった。授業者自身のジグソー学習についての理解不足や指導不足もあり、このようなコメントが寄せられることになってしまった。今後は、授業者自身が、学習方法についての詳細の理解、生徒の実態にあった時間配分などの授業作りをしていく必要性を感じた。一方、91%の生徒の感想は、「年金について、普段知ること、知ろうとしないことをいつもの授業形態ではなく楽しく学ぶことができてよかった。」「年金は、退職してからの生活費をもらうため40年間払う国の営みのようなものである。」などのコメントが記された。特に、年金学習前、「おじいちゃんおばあちゃんが昔はたらいでかせいできた」お金が主な原資なっていると考えてきた生徒達が、年金学習を展開したことで、「これから年金をもらう人々の生活を支えるのは私達である。しかし、私達が年金をもらう側になった時、支えてくれる人がどれほどいるかは確かではない!!」とコメントができるようになったことは、本授業の大きな成果であり、「過去・現在・未来」について気がつけた授業となった。

(3) 宗教を題材とした学習

世界史Bの新指導要領「2 内容」の「(2) 諸地域世界の形成」の「エ 時間軸からみる諸地域世界」には、「主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。」とあり、宗教などをキーワードに授業を考えることもできることが記されている。

イスラーム、キリスト教、仏教の三大宗教をはじめ、ユダヤ教、ヒンズー教は、世界史を理解してだけでなく、地理や日本史、政治・経済などを学習していく上でも重要な内容である。宗教について学ぶことは、新指導要領の地理Bや政治・経済などでも触れられている。そのため、宗教を題材とした学習を世界史で展開していくことにより、新指導要領が目指す、「科目間の関連（教科横断）」した授業が展開できる。そこで本授業では、「諸地域世界の形成を理解し、歴史的事象の前後関係を把握しながら、因果関係を明らかにする」ため、宗教の内容にとどまらず、これを軸とした国際関係を考えさせる授業を計画した。

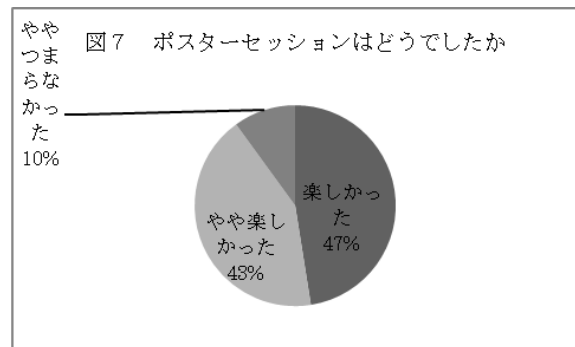
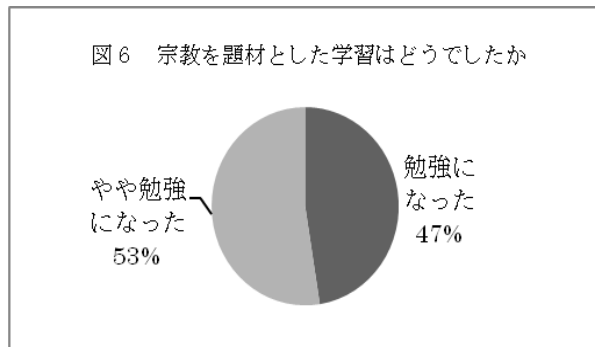
ア 学習指導計画

(「関心・意欲・態度」【○】、「思考・判断・表現」【□】、「資料活用の技能」【◇】、「知識・理解」【△】)

時限	学習活動	教師の支援活動	評価の留意点
第1時限	1, 本時の授業内容を説明する。 2, ポスターセッションの説明を行う。 ① 6～7人の班をつくる。 → 7人の班を5つ。6人の班を1つ。(41人クラスのため) ② 班長、副班長を決める。 ③ 自分達が調べたい宗教をきめる。 ④ キリスト教カトリック、キリスト教プロテスタント、仏教、イスラーム、ユダヤ教、ヒンズー教 ⑤ 調べる内容を決める ・ その宗教を創立した人はだれか ・ その宗教の教え、考え方は ・ いつ成立したか ・ 成立した場所、地域はどこか ・ どこで発祥したか ・ 現在は、どの地域で信者が多いか	◎ 宗教対立から最近の戦争が起きていることを説明する。 ◎ 宗教に関心を持ち、年金について調べることに関心を持たせる。 ◎ ポスターセッションは、自分たちが発表者、聞き役両者を担うことを伝える。	☆ 宗教について関心を持っているか。【○】 ☆ グループ分けに参加し、各班毎に宗教の内容を調べようとしているか。【○□】

	・宗教が絡んだ戦争		
第2 時限	1, 図書館ガイダンス及び調査。	◎各班が担当する宗教について調べる。	☆各自が責任を持って、調査しているか。【□◇】
第3 ～5 時限	1, 調査及び発表資料作成。	◎各班内で役割を決め、宗教について調べる。 ◎模造紙づくりを行うよう伝える。	☆調査に熱心に参加しているか。【○◇△】 ☆発表に向け、丁寧にまとめているか。【○□◇】
第6 ～7 時限	1, 各班内で、前半、発表組と聞き役組、後半、発表組と聞き役組を決めた後、班員がそれぞれ発表、聞き役をする。	◎発表者は、聞き役に対して丁寧に発表を行うよう指示する。 ◎聞き役は、メモなどを取りながら聞き、質問を考えるように伝える。	☆発表がしっかりできているか。【○□◇】 ☆しっかり内容を聞きいているか。【○□◇△】

イ 宗教を題材とした学習の分析



今回の宗教を題材とした学習について、授業に参加した全ての生徒が「勉強になった」「やや勉強になった」と解答した。このことから宗教について勉強する大切さを生徒自身も実感していることが分かる。また、「ポスターセッションはどうでしたか」との質問に対して、90%の生徒が楽しかったと解答した。「ややつまらなかった」と解答した10%の生徒は「他の宗教と関連性を調べてくれる班が1つあっても良いと思う。」「地図に広がり・発生とかまとめて見たい」「他の班の発表時間が短く、全て記入できなかった。」などの意見であった。他との関連や地図については、新指導要領でも重視されている点でもあり、世界史授業において今後、展開する際にも、授業の工夫・改善を行っていききたい。また、発表時間については、ジグソー学習においてもだされた課題である。教員側が事前に発表時間を伝え、その時間内で発表ができるよう生徒に練習させたり、手助けする必要性を改めて感じた。

「現在と過去のつながり」には、43%の生徒が意識できなかったと解答している。その原因は、今回の授業では、上記にあるような「他の宗教との関連」が弱かった面が関係していると考えられる。今後、ポスターセッションを活用し宗教を授業で取り扱う際、改善を要したい。しかし、つながりを意識できた生徒からは、「宗教を調べると色々な歴史が理解できたし、宗教と宗教とのつながりをすると意外に面白い発見があった。」や「宗教内の戦争のところで自分の知っている宗教がでてきたり、うちらが個々で調べた宗教の中でも起きてきていて『あ！さっき聞いた！』みたいなこともあった。」とのコメントもあり、つながりを意識できた生徒もいた。このことは、生徒は単語と単語、用語と用語という横に繋がりでしか理解できなかった歴史を、時代を超え縦のつながりも意識して捉え、歴史を現在にも関係があることと気づけたと考える。

5. 実践の検証と今後の課題

過去と現在のつながりに気づかせる世界史授業として、Ⅰ社会保障史「年金の歴史と未来」、Ⅱスポーツ史「オリンピックがもたらしたもの」、Ⅲ食の歴史「世界に広がるコーヒー」、Ⅳ国際関

係史「宗教を題材とした学習」、Ⅴ民族史「民族の目で第1次世界大戦を考える」各授業を展開した。本研究ではⅠとⅣを取り上げジグソー学習やポスターセッションを授業論として用いたことで、それらの学習の利点が得られたことを紹介した。

「生徒の主体性の向上」についての感想

- ・最初、自分が調べた所はあまり書くことがないと思っていたが、もっとよくしらべると新しいことがどんどん分かっていき、楽しかったし勉強になった。また、こういう学習をしていきたい。
- ・自分が調べたことと関連づけて、他人の調べた事が聞けるので、いいと思います。

「学習に対する責任感の向上」についての感想

- ・各班1人1人が、手を抜いてしまうと、ジグソーの際、しっかり発表できなくなってしまうので、このシステムはよかった。
- ・1人1人がちゃんと調べたり理解しやすいと思いました。

「コミュニケーション技能の向上」についての感想

- ・班の人と仲良くなるきっかけ作りになってよかった。調べ学習自体も大切だけど、お互いが仲良くなったのが最も良かった。
- ・みんなと協力して取り組むことができたのでよかった。

また、本研究の目指した教科横断（科目間の関連）や現代的視点（近現代史の充実）についても、生徒からは

- ・年金の誕生から現在のことまで幅広く知ることができてよかった。
- ・年金は現代人の僕たちにとっても絶対に必要な制度だと思いました。
- ・高校の授業では、なかなか調べ学習がなかったので、とても楽しかった。グループごとに、違うことを調べているので、ジグソーをやると、たくさんの情報が集まるのでよかった。

と言った感想が得られた。本研究の目指すものが生徒に理解されたと考える。

ジグソー学習やポスターセッションを授業論として用い、主題学習を展開したことで、現在と過去のつながりに気づかせることができるだけでなく、聞く、伝える（発表する）といったコミュニケーション能力や表現力の向上も可能となった実践となった。

一方、ジグソー学習やポスターセッションは、準備時間が確保されなければならず、年間の指導計画の中にどのように位置付けるかが難しい。授業内容の精選が不可欠であり、課題としたい。

6. おわりに

3年間の小学校勤務から、念願の高校勤務となり4年が過ぎた。まだ経験年数の少ない私にとって、「地理歴史科・公民科のそれぞれの科目の授業をどう展開していくか」は多くの戸惑いがあった。昨年、5年目研修を終えたばかりの私が、世界史で2年間、研究ができるのだろうか。そんな不安の中での教科研究員のスタートであった。

しかし、教科研究員の2年間は、地理歴史科・公民科の授業で、「生徒同士、生徒と教員の学び合いを高めるにはどうしたら良いか」と考えてきた者にとって、重要な研修の場となった。特に、毎回の研究協議会では、地理歴史科・公民科の先輩である指導課をはじめとした教科指導員、教科研究員の各先生の授業見学ができたばかりでなく、各先生の授業実践を伺えたり、授業の工夫、改善などについても指導や助言をいただけるまたとない機会であった。これらの場は、私に大きな影響を与えてくれた。重要な研修の場を私のような若輩者に与えてくれた、指導課及び教科指導員の各先生、松戸六実高校の校長先生をはじめとした先生方に御礼を申し上げたい。2年間の教科研究員で諸先生方から得た、教科や科目、授業への情熱を決して忘れることなく今後も教育活動に励んでいきたい。